

特色ある学校

資格指導を中心とした 工業高校の具体的取り組み —ジュニアマイスタ最高点取得者誕生の素地—

埼玉県春日部工業高等学校
校長 山田晴彦



1. はじめに

バブル後の日本経済は依然低迷し、高校卒業生を取り巻く雇用情勢及び社会状況は厳しいものがある。普通に授業や部活動に取り組んでいるだけでは、なかなか希望の進路を見出すことはできない。

さらに、入社した会社が自分自身に合わない場合、転職することは極めて困難である。このような状況を打開するためには、特技を持つことが有効な手段である。

埼玉県には、11年前頃から資格取得者にその難易度に応じて点数を付け、その合計点が規定の点数に達すると県知事が表彰する「技術顕彰制度」がある。

県内の工業高校では、技術顕彰制度発足当時は300名前後が表彰されたが、目標を持って学習させることや、企業が資格取得者を優先採用する等のこともあり、資格を取得する者が年々増加し、最近では600名近くにのぼる。

そんな中で本校は、積極的に資格取得指導に取り組んでいる。専門学科を中心に国家資格取得指導を前面に出して、小学科の枠を越え、学校全体の課題として取り組んでいる。

ここに、その概要を紹介する。

2. 本校の概要

春日部工業高校は、埼玉県の東部に位置する人口20万人の春日部市にある。

本校は、日本の高度経済成長時期の昭和39年に創設され、39年の歴史を持つ中堅の工業高校である。

設置学科は、機械科、建築科、電気科各科2学級、計6クラスで、生徒数は724名（内女子30名）である。特徴としては、部活動と資格取得に熱心な工業高校として、中学校や保護者からも定評がある。

現在、13・14年度「工業所有権標準テキスト（特許編）」の有効活用に関する実験協力校として(社)発明協会や、またロボット・実験学習メニューの開発支援事業について科学技術振興事業団から、それぞれ委託された事業を実施中である。

なお、漫画「クレヨンしんちゃん」の漫画家・臼井義人氏は本校の卒業生で、テレビ放映されているアニメーションの舞台には、春日部市及び近隣の様子が時々登場する。

3. 主な資格の取得状況

春日部工業高校の資格取得状況は、[表1]のとおりである。特に注目いただきたいのは、技術顕彰表彰者が[表2]のとおり、県内工

表1 国家資格取得状況 埼玉県立春日部工業高校 進路指導部資格取得係

資格名	平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		
	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	
第1種電気工事士	—	—	17	0	24	4	23	10	50	13	●
第2種電気工事士	75	28	89	16	59	43	86	60	128	92	●
電気工事施工技術者			10	5	29	11	35	24	45	20	●
工事担任者総合種							1	1	1	1	
工事担任者デジタル1種	—	—	11	2	1	0	5	2	—	—	
工事担任者アナログ1種	10	1	12	4	2	1	—	—	—	—	
工事担任者デジタル2種	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
工事担任者アナログ2種	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
工事担任者デジタル3種			1	0	38	7	19	8	—	—	
工事担任者アナログ3種	38	16	21	6	39	5	1	0	6	4	●
電気主任技術者	—	—	9	0	11	0	9	2	11	0	
アマチュア無線 4級	—	—	1	1	1	1	—	—	—	—	
2級ボイラー技士	79	33	87	52	182	85	206	114	86	47	●
第2種冷凍機械責任者	—	—	—	—	3	2	11	3	3	1	●
第3種冷凍機械責任者	—	—	21	6	63	20	73	22	42	15	●
消防設備士 甲4類	—	—	1	1	8	1	11	3	31	14	●
消防設備士 乙6類	38	19	60	32	84	45	93	49	37	21	●
消防設備士 乙7類	—	—	6	4	2	1	3	1	18	10	●
建築施工技術者	50	15	58	21	54	30	34	25	33	14	●
危険物取扱者 丙種	160	126	128	113	57	44	167	149	9	5	●
危険物取扱者 乙1類	59	56	66	54	135	94	71	56	57	46	
危険物取扱者 乙2類	55	45	67	57	111	91	75	57	52	37	
危険物取扱者 乙3類	46	36	56	45	111	81	76	64	36	29	
危険物取扱者 乙4類	213	93	241	91	267	105	333	159	107	44	●
危険物取扱者 乙5類	60	55	70	63	116	97	75	59	88	73	
危険物取扱者 乙6類	70	59	70	65	111	84	77	60	87	68	
国家試験合格者延べ人数		584		638		852		928		556	

※表の右脇の●印のある資格は、早朝(7:30~8:30)または放課後(15:30~16:30)、あるいは合宿により補習を行っている。

備 考

平成	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
危険物取扱者 乙種全類	31	48	60	70	68	24
埼玉県技術顕彰制度表彰	76	77	84	112	126	45
全工協ジュニアマスターゴールド	—	—	—	—	—	19
全工協ジュニアマスター シルバー	—	—	—	—	—	26

その他(国家資格以外)

低圧電気取扱者、計算技術検定3級、計算技術検定4級、基礎製図検定、発破技士、小型フォークリフト、小型車両系建設機械、産業用ロボット、玉掛け、自由研削砥石、特定化学物質、有機溶剤、ガス溶接、アーク溶接、初級救命救急士、小型ボイラー
--

表 2

年 度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
農業科	149人	144人	137人	165人	126人
工業科	335人	397人	417人	444人	568人
春日部工業高 部 人数 工 割 合	76人	77人	84人	112人	126人
	23%	19%	20%	25%	22%
商業科	1649人	1614人	1906人	2030人	1732人



写 1

業高校内での割合が11年度は25%，12年度は22%である。これは、先にも述べたように、資格取得に特に熱心な指導体制とともに、生徒が積極的に自分の属する専門学科以外の資格取得にも挑戦していることの現れである（写真1）。

また、工業分野以外の分野でも多くの資格を取得している。

また、昨年度から始まった全国工業高校長

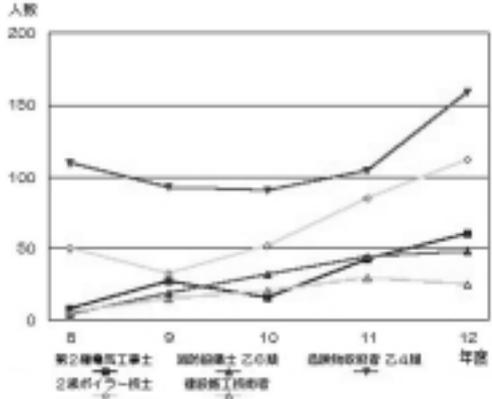


表3 主な資格取得状況

協会のジュニアマイスター制度では、全国最高得点者（130点）が誕生するなど、45名がゴールドやシルバーの称号を授与された実績もある。（写真2，新聞記事）

4. 試験向きの指導法

資格試験の指導は、指導要領に基づく体系の中に位置付けることが難しく、合格をさせるための指導にならざるを得ない。

そのため、早朝や放課後等に指導を行い、[表3]のように合格者を年々増加させることができた。

多種多様な資格がある中で、国家資格は容易に取得できない。まして高校生にとっては、現実的にいくつかの問題点がある。

- (1) 高校生の学力が低下している。
- (2) 仕事に有利な資格は、技術的な知識や実践的な知識、法令等を理解しなければならない。しかも実務経験がない。
- (3) 資格だけに取り組む時間が多くとれない。

そこで、機械科や電気科の教員が、過去の問題を分析・研究し、出題頻度から



写2 新聞記事から



写 3

必要最小限度のデータを集めて、図やグラフ・表などを多く取り入れ、視覚に訴えるように心がけた、自作テキストを作成した（写真3）。

また、資格試験の特徴として、数値や難しい計算式が多く、市販の参考書や問題集だけでは理解するのが困難であるので、社会科の年表を覚えるように、難しい式や紛らわしい数値をすべて「語呂合わせ」にし、テープやCDに録音し無料で貸出した。それにより、部活動に熱心で補習に出席できなかったり、勉強する時間が少ない生徒も、電車の中でヘッドホンで音楽を聴く感覚で、勉強するようになった。

試験直前になると、毎日、夜10時過ぎまで、学校で徹底的に指導を繰り返した。他科の専門外の生徒が頑張る姿を見て、お互いに競争心が出てきた雰囲気もある。

さらに指導者側も実際にその資格試験を受験してそのノウハウを体験し、その成果を生徒に伝授していることも重要な要因である。

5. 効果

これらの地道な取り組みの成果が、学習・生徒指導面により結果をもたらしている。また、企業や地元社会あるいは中学校等にも広く浸透してきた。

- (1) 取り組みが、3大新聞をはじめ東京・埼玉新聞に度々紹介され、反響も大きく、生徒募集活動により結果を与え、学校の活性化につながった（写真4）。
- (2) 成績が振るわない生徒も合格することで、自信が増し、学習意欲の向上につながった。
- (3) 休憩時間などに生徒同士で「語呂合わせ」をしており、教室が学習の場であると



写 4

いう雰囲気が増した。

- (4) 資格取得がきっかけで勉強方法が身に付き、成績が向上した。
- (5) 学校の規則を遵守しない生徒は講習会に参加させない等の方針から、生徒指導にも役立っている。
- (6) 運動部以外の生徒の多くが1年を通して何らかの資格取得に挑戦しているため、生徒指導対象者が大変少なくなってきた。
- (7) 進路指導面でも、1名枠採用の企業で資格を多く取得している生徒を増加枠で採用してくれたり新聞に掲載された生徒を採用したいとの申込みもあった。
- (8) 多くの資格を取得した卒業生は入社後、多額の資格手当を受けていることや、会社の上司を含め社員に社内教育の指導者に抜擢された等の嬉しい話が報告され、後輩への刺激となった。
- (9) 多くの資格を取得した生徒は、大学の特待生やOA入試などで合格を手に入れた。
- (10) 新聞に掲載されたことにより、リストラ等で困った社会人の方からも勉強方法の問い合わせがあり、本校での危険物取扱者試験の開放講座は大変喜ばれ、受講者の真剣な受講態度が生徒にも反映し、よい刺激になった。
- (11) 各資格における「語呂合わせ」の数は、50~200位であるが、この資料を自作したことで、教員の頭の中が整理され、生徒からの質問にもすぐ対応できるようになった。
生徒にとっては、受験生徒のほとんどが合格するようになると、落ちたくないという意欲が出てきて、一層頑張るといったところが本音であろう。
さらに、資格の数によって県知事や全国工業高校長協会から表彰を受けることにより、励みが倍増したことも考えられる。

6. 今後の課題

長期間にわたる多種の資格指導には、多くの悩みもつきものである。主な課題を紹介すると、

- (1) 早朝や放課後、夏季・春季の補習等は純粋なボランティアであり、代休などとれない悩みがある。試験日が連続する場合があります、連日特訓の状況もある。
- (2) 市販の参考書は高価であり、しかも法令等の改正が多く、常に新しい本を買い求めなくてはならない悩みがある。指導者の経済的負担が大きい。
- (3) 自作テキストも常に改訂作業が必要で、資料やテキスト印刷等に相当な時間と労力が求められる。
- (4) 資格取得に挑戦する生徒の増加に伴い、指導場所の確保が急務となる。
- (5) 資格試験の受検料が高額で、生徒の経済負担が増す。
- (6) 一部保護者の理解不足があり、学校で資格取得を教えるのは当然という考えの者がいる。
- (7) 人事異動に伴う、指導体制の確立が求められる。

7. おわりに

資格取得が、生徒にとって学習意欲の向上や進路確保に有効で、学校にとっても生徒指導や生徒募集、特色ある学校作り等に効果があることが実証された。しかし、教員のボランティアだけに頼っていてよいのであろうかという苦悩もある。

これらの苦悩も救われる時がある。合格した喜びの生徒の顔を見る時で、「また来年頑張るか」となる。自ら生きる力を育みながら、生徒個人の目標と学校の目標達成へ、今後も学校をあげて努力したい。